

101 腕うでに縫よりを掛かける

自信じしんのある技術ぎじゆつや能力のうりよくを十分じゅうぶんに発揮はつきしようと思い気き込こむ。

102 打うてば響ひびく

すぐすぐに反はん応おうする。

103 腕うでを振ふるう

技術ぎじゆつや能力のうりよくを十分じゅうぶんに発揮はつきする。

104 腕うでを磨みがく

技術ぎじゆつや能力のうりよくを向上こうじやうさせるため努力どりよくする。

105 独う活どの大たい木ぼく

体からだが大おおきいだけで、何なんの役やくにも立たたない者もの。

106 鰻うなぎ登のぼり

物価ぶつか、人にん気き、気き温おんなどが急きゆう激げきに上あがっていく。

107 鵜う呑のみにする

物事ものごとの内容ないよう、真しん意いをよく理り解かいせず、受うけ入いれてしままう。

108 鵜うの目め鷹たかの目め

熱心ねつしんに何なにかを探さがしているようす。

109 馬うまが合あう

互たがいの心こころがぴつたりと合あう。気きが合あう。

110 海うみの物ものとも山やまの物ものともつかない

物事ものごとの得え体たいが知しれず、将しょう来らいどうなるかわからない。

111 有う無むを言いわせず

文句もんくを言いわせず。相あ手ての意い見けんに関かわらず。無む理りやり。

112 裏うら目めに出でる

良よいい結けつ果かを期き待たいして行おこなったことが、逆さかに悪わるい結けつ果かになる。

113 裏うらをかく

相あ手ての思おも惑わくとは反はん対たいのここをして、相あ手てを出だし抜ぬく。

114 売うり言ことば葉か買かい言ことば葉

相あ手ての暴ぼう言げんにたいし、同どう様ように暴ぼう言げんで返かえす。

115 瓜うり二ふたつ

顔かおや姿すがたなど容よう姿しがよよく似にている。

116 上うわの空そら

他ほかのここに気きを取とられ、目めの前まえのここに集しゅ中ちゆうできない。

117 得え手てに帆ほを揚あげる

得とく意いなここを發はつ揮きできる機き会かいが到とう来らいし、張はり切きる。

118 絵えに描かいた餅もち

計けい画かくだけで実じつ際さいには何なんの役やくにも立たたない。実じつ現げんする見み込こみがない。

119 襟えりを正ただす

気き持もちを引ひき締しめ、ままじまに事ことにああたる

120 縁えんもゆかりもない

何なんのかかわりもない。